

平成 31 年度

事業者番号	0169	事業所番号	016901
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社ニコン 熊谷製作所		
事業所所在地	市区町村	熊谷市	
	字・地番	御稜威ヶ原201番地9	
産業分類名(中分類)	生産用機械器具製造業		
分類番号(中分類)	26		
事業活動の概要	事業内容 従業員数等	事業:半導体製造装置の開発・設計、製造、品質保証 従業員数:1,600名(派遣社員含む。2017年4月) 敷地面積:107,504㎡	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第2計画期間の削減目標

計画期間	27	年度	~	31	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量(46,863 t-CO <sub>2</sub> )に対し、削減計画期間の平均削減率を13%以上とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	203,854	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	30,461	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第3計画期間の削減目標

計画期間		年度	~		年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1)原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
	17,446	16,898	15,407	14,821	

## (2)計画期間の温室効果ガス排出量の推移

 CO<sub>2</sub>換算(t-CO<sub>2</sub>)

		計画期間				
		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		34,312	33,243	30,347	29,194	
その他 ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		34,312	33,243	30,347	29,194	

 (3)計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況(エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

 CO<sub>2</sub>換算(t-CO<sub>2</sub>/指標)

				計画期間				
				27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位				0.3871	0.3751	0.3424	0.3285	
活動規模の指標	生産量							
	○ 床面積	m <sup>2</sup>	88,634	88,634	88,634	88,884		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	46,863	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量検証	基準年度検証実施済	

## (2) 基準排出量の変更

変更年度		変更量	
変更年度		変更量	
変更年度		変更量	

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

27	年度から	31	年度まで
----	------	----	------

## (5) 年度ごとの状況

		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	削減期間 合計	
基準 排 出 量 等	基準排出量(A)	46,863	46,863	46,863	46,863	46,863	234,315	
	トップレベル認 定							
	目標削減率(B)	13.0%	13.0%	13.0%	13.0%	13.0%		
	排出上限量 (C = ΣA-D)							203,854
	排出削減目標量 (D = Σ(A × B))							30,461
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	34,312	33,243	30,347	29,194		127,096	
	排出削減量 (F = A - E)	12,551	13,620	16,516	17,669		60,356	
特 例	高効率設備の 算定量(※)							

※ 算定を希望する場合のみ記入する。別途、算定資料(任意様式)を添付すること。

 (6) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

設備の増減はないが、以下の施策を実施し、排出量を削減した。 ①空調機運転時間の見直し・居室空調の運転は原則定時間後および休日は停止。 ・クリーンルーム空調は、可能エリアで夜間の部分停止を実施。 ②設備機器のインバーター化・生産および空調用ポンプ7台にインバーターを取り付けた。 ③熱源機運転パターンの最適化によるエネルギー使用量の削減・熱源監視データを基に、最 適な運転パターンを決定し運転切替を実施した。
--

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対策の区分			対策概要	実施年度	推計削減量(t) (一年度当たり)
	区分番号	区分名称				
		大区分	中区分			
1	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	1号館吸収式冷凍機更新(011RB01)	H31年度	
2	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	7号館吸収式冷凍機更新(071RB03)	H31年度	
3	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	2号館変圧器更新	H31年度	
4	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	7号館(事務棟1~4F)照明器具更新	H31年度	
5	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	3号館チリングユニット更新(031RB03)	H32以降	
6	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	5号館チリングユニット更新(052RB01)	H32以降	
7	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	テニスコート照明器具更新	H32以降	
8	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	6号館ボイラー更新(061B01)	H32以降	
9	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	2号館チリングユニット更新(021RB05)	H32以降	
10	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	5号館チリングユニット更新(052RB02)	H32以降	
11	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	7号館チリングユニット更新(071CAH01)	H32以降	
12	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	1号館ボイラー更新(011B01)	H32以降	
13	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	3号館ボイラー更新(031RB06)	H32以降	
14	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	吸収式(061RB01)更新	H29年度	44
15	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	特高変圧器更新	H29年度	22

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

## 自由記述欄

◇ニコン熊谷製作所は、省電力化や空調運転の効率化などへの取り組みが評価され、2017年には関東地区電気使用合理化委員会より最優秀賞を受賞しました。そして、2019年2月に省エネルギーへの貢献が顕著であった優良事業者として、関東経済産業局長賞を受賞しました。

◇ISO14001を継続しており、2015年版への取り組みも強化している。